

南紀白浜空港展望広場にビジネス拠点開業

地域のゲートウェイに

オリエンタルコンサルタンツは11日、南紀白浜空港展望広場で浅川組とともに整備・運営するオフィス拠点「Office Cloud 9（オフィスクラウドナイン）」の開業式を開



テープカットする野崎社長（中央）と仁坂知事（左から2人目）

いた。オリエンタルコンサルタンツの野崎秀則社長のほか、仁坂吉伸和歌山県知事らがテープカットを実施し、多様な人々の交流により地域活性化促進を見込む同施設の完成を祝った。

開業式では、野崎社長が「空港と太平洋のダイナミックな景観を目の前に、紀州材を使用した木のぬくもりを感じる空間となっている。企業や地域の人々が快適に利用し、地域のゲートウェイとなればと思う」とあいさつした。

続いて浅川組の池内茂雄会長が「南紀白浜空港は紀南地方の玄関口であり、ワーケーションには最高の立地。事業への参画は大変に有意義なものだと実感しており、今後運営に携わりながら地域活性化に貢献していきたい」とあいさつし、仁坂知事

木のぬくもり感じる空間

オリコンサル組
浅川



紀州材を活用している施設内部

は「素晴らしいオフィスが完成した。今後もワーケーションの場として活用し、和歌山県や紀南地方発展の起爆剤としていきたい」と祝辞を述べた。

今回の事業はオリエンタルコンサルタンツが開業する「地方創生事業」のモデル事業となる。和歌山県の事業公募で「白浜発地域ゲートウェイ」としての総合ビジネス拠点をコンセプトに提案し、2021年10月1日から20年間の事業用定期借地権設定契約を結んでいる。同空港を運営する南紀白浜エアポー

トとも連携しながら、ICT企業の誘致や空港利用者の利便性向上、ワーケーションの促進など、同施設を核とした地域活性化に取り組む。

施設は木造平屋建て1000平方メートルで、設計はオリエンタルコンサルタンツ、施工は浅川組が担当した。施設内は、企業向けの七つのレンタルオフィスエリアと、空港利用者など一般利用者を対象としたコワーキングスペースエリアで構成する。地域材である紀州材を活用するほか、観光名所である三段壁をイメージした内装を施すなど、白浜らしさを演出する。

SDGs（持続可能な開発目標）を念頭に、屋根には太陽光発電パネルを設置し、エネルギー収支のゼロを目指すZEB（ネット・ゼロ・エネルギービル）化やBEMS（ビル・エネルギー・マネジメント・システム）を導入するなど、脱炭素化の視点も盛り込んでいる。